

献辞

上村明廣先生は、二〇〇二年三月末日をもって本学をご退職なさいました。先生への法学部教員一同の深い敬意と感謝の念を込めて、ここに退職記念論文集を刊行し、先生に献呈させていただきます。

先生は神戸市のお生まれで、神戸大学法学部を卒業後、同学部の助手を経て、岡山大学法文学部（改組後は法学部）に赴任され、定年退官まで同大学に永年奉職されました。この間、学部長、評議員等、大学運営の要職を歴任しておられます。またご研究の面では、周知のように先生は民事訴訟法学界で展開された訴訟物理論の大論争の中できわめて顕著な業績を挙げられ、錚々たる学者としてそのお名前は広く学界に轟いています。

本学法学部では一九九五年に、新設されて間もない国際関係法学科の教授として先生をお迎えしました。新学科の礎石を固め学部を発展させるために先生に振るっていただいたお力は、例えようもなく大きなものでした。その高いご見識と強い指導力とは、教員一同が敬服してやまないところであります。

古来、「深沈厚重、是第一等資質。磊落豪雄、是第二等資質。聰明才弁、是第三等資質。」と言われていました（呂坤「呻吟語」）。先生のお人柄は、仕事の上ではまさに「深沈厚重」の鑑のようであります。静かに、しかし毅然として語られる、選り抜かれた言葉と厳然たる論理とは、聞く者に千鈞の重みを持って迫り、現代では稀になつた古武士の風格を感じさせます。しかし仕事を離れると、優しい温かさや巧まざるユーモアとで相手を包まれます。学生の間には先生の熱烈なファンが少なくないのも、その辺に秘密があるのかもしれない。先生と職場をと

もにし、親しくそのお人柄に接する機会を持ち得ましたことは、私どもの貴重な精神的財産となっております。先生はまた永年、岡山県地方労働委員会会長の要職にあつて、労働争議の調整や不当労働行為事件の審査等、労働行政の重責を果たされており、全国的にこの分野の重鎮として「知る人ぞ知る」著名な存在でもあります。このように今なおご多忙な先生ですが、一層ご自愛の上、末永くお元気でご活躍いただき、私どもにもご鞭撻のほどをお願いして、粗辞ながら献辞とさせていただきます。

二〇〇二年一〇月

法学部長 馬 渡 淳一郎